

のせ通信

株式会社 能勢建築構造研究所



表紙：千鳥ヶ淵緑道の夜桜と月（2020年春に撮影）写真：〇〇 〇〇



- ✚ 【馴染みの鳥と】 朝の通勤風景 今日も一日頑張ろう
- ✚ 【必見レビュー！】 沢山ある動画配信サービス…実際に使用して比べてみた！
- ✚ 【好き+好き=最高♡】 彦根城でひこにゃんに会おう♡
- ✚ 【今夜のアテは…】 宅飲み用のオススメおしながき出来ました～！
- ✚ 【長い時を重ねて】 歴史と季節を感じられる公園の魅力
- ✚ 【充実のお家時間】 より素敵になったお庭で春の気分も明るく♪
- ✚ 【のせギャラリー】 今年の干支を描いてもらいました！（うし以外もいるよ☆）

のせ通信

目次

企画	17	のせ通信 心理テスト
	14	そんなに良いの？ S S 7
企画	13	宅飲み時のお酒のアテは？
企画	12	桜餅の葉 食べる？食べない？
	10	ひこにゃん
	06	GOTOトラベルで家族旅行
企画	05	上司にしたい有名人
	02	動画配信サービスのすすめ
	01	朝の通勤風景

	裏	26	氏神様の大改修
企画		29	のせギャラリー
企画		25	賞味期限切れ、いつまで食べる？
		22	庭いじりしてみました
		20	平城京跡地公園の魅力
		18	何故か、R&J 月々雑記
	見えます？映画		ヨコトーク

朝の通勤風景

今回は旅行の話をする予定でしたが、コロナによって旅行がキャンセルとなり、どこへもお出かけがしづらい状況になってしまいましたので、普段の何気ない日常風景をご紹介しますことにします。今回は福岡支社周辺の様子に関してご紹介しましたが、今回は私の家から最寄り駅までの通勤風景をご紹介したいと思います。

現在、私の家は福岡県大川市というところにあり、そこから片道一時間以上かけて福岡支社まで通勤しています。大川は、木工業がたいへん盛んなまちで、家を出てまちを歩くと、材木店、木工所、家具店など、木工業に関連する業者や施設が必ず視界に入ってきます。最初の写真①は、自宅玄関を出てすぐ目の前にある材木店です。朝の通勤のスタートは、まず木の香を嗅ぐことから始まります。

大川と最寄り駅のある柳川は、有明海沿岸のクリーク（掘割）地帯に位置し、市内には縦横にクリークが張り巡らされています。クリークは、もともと湿地帯であったところを、先人たちが生活のために掘割として整備してきたものです。現在もクリークは農業用水のほか、

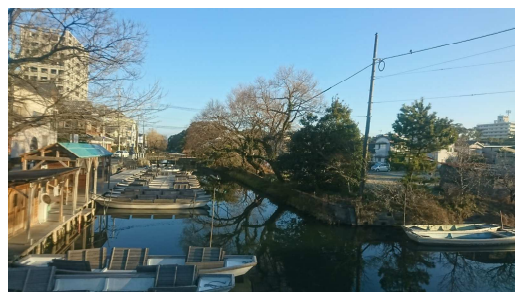


写真①：自宅前の材木店



写真②：毎日同じ場所にいる鳥

域全体の雨水、防火用水などに利用され、まちの重要な役割を果たしています。昨年も九州では豪雨がありました。私の住むまちが大きな被害を免れたのはクリークがあったおかげかもしれません。毎朝、クリーク沿いを歩きますが、クリークでは亀



写真③：川下り乗船場

や鯉など多くの自然の生き物に出会います。写真②は、通勤路にあるクリークの様子ですが、私を毎日見送ってくれる鳥が写っています。雨の日以外はほぼ毎日、同じ場所に来てくれますので、いない日があると、ちょっと不安になってしまいます。駅近くには、川下り観光の掘割があります。写真③は、川下り乗船場の朝の風景です。コロナの影響で以前より船の数が少ないようにも感じますが、日中はお客さんに乗せた船が掘割を往来し、にぎやかな様子となります。川下りをすると、地上からは味わえない独特な水郷風景を楽しめますのでおすすめです。

写真④は、駅のコンコースの様子です。2〜4月にかけて柳川ではひな祭りイベントが開かれるため、駅構内にもひな祭りの飾りつけがなされています。

写真⑤は、私が毎日お世話になっている通勤電車です。アイスグリーンのカラーリングがとても印象的です。この電車は福岡県を南北に走っており、沿線には大宰府天満宮や二日市温泉などもあります。コロナが収束して福岡に旅行にいられた際は、西鉄沿線の観光地にもぜひ足を運んでもらえたらと思います。



写真④：西鉄柳川駅



写真⑤：西鉄5000系

平城京跡地公園の魅力

皆さん、奈良時代の始まりをどのように覚えていたか？私は「なんと立派な平城京」（七一〇年）と覚えました。

平城京は、奈良時代に日本の首都であった都市です。長岡京に遷都した後、平城京は田畑となりました。しかし、江戸時代末期からの調査研究やその後の地元民間有志の活動などを通じ、その保存整備が進められてきました。

そして現在、平城京は平城宮跡歴史公園として多くの人々の憩いの場として親しまれています。今回は平城宮跡歴史公園の三つの魅力を紹介します。

この公園の一つ目の魅力は、建物を復原したり、遺構を展示したり、さまざまな形で当時のようすを楽しむことができます。二〇一〇年には平城遷都一三〇〇年記念事業が行われ、大極殿や朱雀門などの歴史的建造物が復原されました。そのとき登場したマスコットキャラクターの「せんとくん」は、今も奈良県の観光マスコットとして活躍しています。



第一次大極殿スケッチ

右の写真は、復原された東院庭園の梅の花です。二月の初めに撮ったものですが、綺麗な梅の花が咲き始め、ひと足早い春の訪れを感じることが出来ました。その他に大極殿・朱雀門など建物が復原されています。上の大極殿の絵は、四、五年くらい前に描いたものです。描き上げるのに随分と時間が掛かってしまったが、今思えば楽しい思い出です。



東院庭園の梅

魅力の二つ目は、とにかく広大な広場です。東京ドーム二十五個分くらいの広さがあるようです。都市部にありながら、これだけの広さを有している公園は稀かと思えます。隅々まで散歩すると、半日くらい時間を要するかもしれません。日頃のソーシャルディスタンスの窮屈さを忘れて、気持ちも心も伸び伸びするでしょう。しかし、何も無いように見えますが、長岡京に遷都して以降、長く田畑だったため、当時の遺構がかなり完全な形で地下に眠っていると言われています。そっと目を閉じると古の風景が蘇ってくるかもしれません。

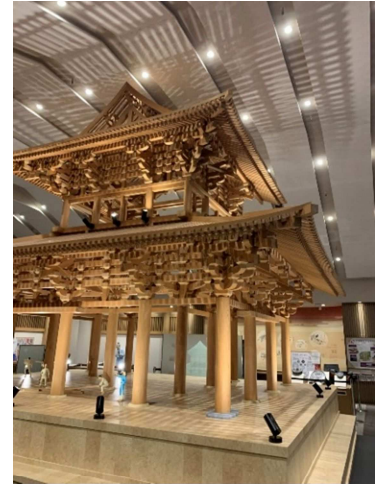


第二次大極殿跡



平城宮跡歴史公園マップ

三つ目の魅力は、「朱雀門ひろば」です。二〇一八年に「朱雀大路」と「二条大路」の整備に伴い、観光拠点として開園されました。「朱雀門ひろば」は「平城宮いざない館」、「天平みつき館」、「天平うまし館」、「天平みはらし館」、「天平つどい館」という5つの館と芝生広場、復原遣唐使船などで構成されています。



復原模型 1/5

「平城宮いざない館」は、出土品や古い資料が展示されていますが、施設が新しく清潔感が漂っています。平城宮跡のいま、時を超えて、平城宮のようす、往時のいとなみ、と四つのコーナーに分かれています。また展示物への説明が丁寧でかつ、絵やイラストで示されていますので、小さな子供さんでも楽しめます。

右下の写真は、第一次大極殿復原にあたり製作された構造模型です。柱・組物・垂木などの構造が間近で、じっくり見ることが出来ます。



法隆寺金堂大棟 鬼瓦

上の写真は、特別展「鬼神乱舞― 護る・祓う鬼瓦の世界―」で展示されていた法隆寺金堂大棟の鬼瓦です。この他に、様々な時代に作られた鬼瓦約50点がずらりと並んでいます。特別展は残念ながら3月末で終了しています。また、開催されることを期待しています。

以上が、平城宮跡歴史公園の三つの魅力です。

「あおによし ならの都は咲く花のにおうがごとく いまさかりなり」

奈良時代の小野老（おののおゆ）が大宰府に赴任中に奈良の京を賞讃して詠んだとされる望郷歌です。詠まれたのが七三〇年頃で、藤原京に遷都されるまで六四年間で、最も活気があつた時期のようです。

歌人の小野老が、一三〇〇年の時を経て公園として蘇った平城京を見たとき、どんな歌を詠むのでしょうか？
とても興味があります。



復原遣唐使



朱雀門スケッチ

あおによし ならの都は
咲く花のにおうが
ごとく いまさかりなり

のせギャラリー

牛はかねてより食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として人間の生活には欠かせない動物です。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近な稼起の良い動物として十二支にも加えられ、愛され続けています。

